



伊予
の
い
の
い

中村俊定文庫
文庫 18
294





お佐



涼信稿

沖可月十日あるに心ざし即ち舟に上りて寄居
 の里老老を幸ひてやうとすあやうし雙ふるる松のこ
 久しく凡雑紙物止む友に伊山あり鬼園お察
 ありて燕門はたねいまりに流りに偷眼し
 神起の風色よこらあれとくはまき其の集にうつを
 しくも附かりて紙物とせんともくそ尺紙の屬に
 りぬ今宵ハ伊山のゆあやうしあやうし伊傍の附き

此向のむきし 一 雙を向ま井乃折下七名ハ新
乃備ありや予答りす 一 又向の折下にあやや
予曰くは尺新ありし 一 亦隨身くぬき糸の
海もあつて亡命乃収多明なるもありこの
比乃凡系証ためんとせば教乃も改さすもあれ
一 議海乃収編も是よりいひむ折下と
穢乃くくもの門扉乃病にこれハ毒化ハ師と
隨道水く 一 世りくひ尺新、茶もぬく 一 師

附に味あると云ふ乃横砂は尺生らるは鯨から
一 海も及ぬく 一 されハ付らるの病ハ辞くくを茶
毒乃言あるは毒井の神術にこれハ一 ぬき情中の
ぬけりぬきりの上は括のありぬきりぬきり
乃くく補茶証あふ毒井やの門は志あり
あり只付らるるはあす 一 一はらの毒病は
ぬんくくは是も茶毒あやむげは附りさ
切証きんく是も毒井乃折下と茶 一 一と

小振小樹乃人ハおりひぬ平を路々或極路に等々
曰病ありれむ事日あ繁々踏は足跡々理論も
よむ一乃乃他証者日々して二乃の乃乃味と二乃の
そふれ証者と行々也証彼に一任する事兼て云乃
我々さといふ一々に

伊山同くりく足跡々極証者日々日居とは極に
証む事これハ素々々とあ証者々々け前々ハ何ん
けりあ々々此ハいん是ハ姨々是ハ娘々々行亦乃

故極に及ひ証者乃す々証者日々々々ふ々た々は
善信物のみ時余等につく々証証出とは是令
高々素々々二乃証者々々扱と立証者々々ハ足跡
ひとりありら々々証子のあちハ通す々々証者
餘証者れ々々のこ々々証者証者証者証者証者
々々証者証者証者証者証者証者証者証者証者
その証者証者証者証者証者証者証者証者証者
証者証者証者証者証者証者証者証者証者証者
証者証者証者証者証者証者証者証者証者証者

も一ふちんは白よりあしきいあめりか持たに
及はらふ付くよふ白よけあつたは持よあむ
時をけりらふあつたは言外のあめりかと
きつらふはひりつてあめりか

かくのこつてあせはあめりかあめりかこつてあ
あめりかあめりかのあめりかあめりか
あめりかあめりかあめりかあめりか
あめりかあめりかあめりかあめりか
あめりかあめりかあめりかあめりか

きつらふはひりつてあめりか
あめりかあめりかあめりかあめりか
あめりかあめりかあめりかあめりか
あめりかあめりかあめりかあめりか

きつらふはひりつてあめりか

あめりかあめりかあめりかあめりか
あめりかあめりかあめりかあめりか
あめりかあめりかあめりかあめりか
あめりかあめりかあめりかあめりか

寄おとる

梅あましたくはる家乃口

尾はく架うく冬乃雪

是はちうあ付をるれとや上りうひすの働

あやふやすくたのむ切もよすすく一巻乃

付とよとけのには是いつくは是にこたはいうん

と道吳の詮系よあくくたきあきたりおとく

付くふりのつあふよきつふふの付さすおの

よ〇〇〇振〇〇〇と〇〇〇う〇〇〇ー〇〇〇な〇〇〇令〇〇〇一〇〇〇の〇〇〇働〇〇〇こ〇〇〇して〇〇〇お〇〇〇の〇〇〇付〇〇〇け〇〇〇あ

接規〇〇〇よ〇〇〇う〇〇〇は〇〇〇七〇〇〇各〇〇〇も〇〇〇ハ〇〇〇体〇〇〇も〇〇〇これ〇〇〇素〇〇〇より

お〇〇〇と〇〇〇あ〇〇〇ー〇〇〇と〇〇〇や〇〇〇お〇〇〇の〇〇〇令〇〇〇体〇〇〇も〇〇〇

け〇〇〇妙〇〇〇て〇〇〇あ〇〇〇ま〇〇〇の〇〇〇佛〇〇〇れ〇〇〇切〇〇〇ま〇〇〇こ〇〇〇め

け〇〇〇白〇〇〇に〇〇〇舟〇〇〇と〇〇〇よ〇〇〇う〇〇〇海〇〇〇あ〇〇〇ー〇〇〇と〇〇〇り〇〇〇あ〇〇〇の〇〇〇あ〇〇〇ま〇〇〇一〇〇〇を

笑〇〇〇く〇〇〇さ〇〇〇く〇〇〇や〇〇〇ら〇〇〇と〇〇〇あ〇〇〇ら〇〇〇も〇〇〇遠〇〇〇お〇〇〇の〇〇〇け〇〇〇ー〇〇〇よ〇〇〇め〇〇〇く

ゆ〇〇〇の〇〇〇う〇〇〇ら〇〇〇よ〇〇〇う〇〇〇め〇〇〇く〇〇〇ー〇〇〇舟〇〇〇は〇〇〇格〇〇〇お〇〇〇の〇〇〇ゆ〇〇〇た〇〇〇く〇〇〇た〇〇〇か

花〇〇〇同〇〇〇く〇〇〇く〇〇〇は〇〇〇あ〇〇〇ま〇〇〇く〇〇〇ー〇〇〇り〇〇〇や〇〇〇よ〇〇〇う〇〇〇船〇〇〇は〇〇〇あ〇〇〇ま〇〇〇く〇〇〇ー〇〇〇と〇〇〇め

その代若々細とまじり

いまりしんさや 舟乃 葉也

かくつくりされ、その辛さの辛さの辛さ、
酒をくばせし、一俵の酒や、家に、
すの舟を二舟の向う、おのけの昔おのけ、
其の代若々、舟よ、く、酒を、た、やす、
おのけや、い、舟よ、やと、舟上の、舟り、
く、ち、葉

角力なる、境と、町、は、舟、
けり、さ、さ、ら、の、お、角、力、
、お、か、き、お、と、お、向、お、ま、れ、
、い、た、お、り、ら、い、お、つ、り、
敵の、痛、う、さ、れ、く、む、
足、掛、踏、る、名、譽、ち、り、
あ、茶、席、の、他、酒、あ、り、
は、つ、や、り、日、志、い、く、
海、は、あ、り、ま、い、り、
と、ま、れ、く、と、ま、れ、
と、ま、れ、
と、ま、れ、

同様の夫又とははるなりし是故直の詞り
似しれと何ほりて領ちるものもかきよけ以て
すれハぬちみやくにおりいみされうつとありい
強百舎りともおもすも睡しとも甲にうも
りあり強にありるるのこも借種乃所
強りよふなりけしに伊傳の舎まにかりとあり
百強は傳りありし傳に夕強叫くすも居持
の物にさるもさる亦ぬと強持事下ハヤヤ

一苗白り乃ふあるハ又平すもあまむし
法家の点ぬり妻事初文とよふ強はよて
養あに平強なるある人序強よけし時
今るも初文の白法なちちくさくの強に
急く林目顧し何くえみぬ強傳すてに
まよ乃く妻事のうに

いふちかいつて強は強なり
と何くその巻もよくありし伊傳の人

乃茶活ちやうしゆに於ては
河まよの判者明ん中うに
故人もりくく通
吐ハ船病の長しん

各同多うは又持をりてあつふつ
や予日
りれり持におうきん先論た
信徳の改作
ち紫ひすく後白所白の論
りのすくはく
んせしんはのおやほつく
れより目前の昼
しほらるや

ぬよはらすあめの海やねの娘よ

是いせの春虎ううすく
き森の保るハぬよはら
の辞すく用ち茶は保ち
信活くふりの喧ま
くあにあしころりのと
ちん一あめのつるま
いあは
嘯ち茶又ぬよはらす
くあはらるくあは
信活の大龜頭ちん
あまに人情の扱を
く
あはらるてく
あまをわけハとく
むある年を
乃
くはらるあめのす
くあはらる

志のわすもるく 昔の實り今
 及てみやけと 仕果ふ小陽子
 止園のぬけく 糞やうに嫁のま
 ま加価やま 脱たつぬ
 山山む乃あうん 比川着やす
 すく遊人そ ー ぬ子お
 音こに伝家毒の力も 煮くけ
 重あかりけちのり 茶園

いそおく 餅の園も 神あし
 一字おほく 懐けし ぬぬ
 帆けらに 急りあて 見くす ぬぬ
 答のあし 昔も 通取と 遊
 探題は 柳とかゆり 柳乃む
 大氣よき 山人の 鼻せぬ
 お好に 木挽もころ ぬぬ
 権も 扇も くれぬ 夕日

園 山 壑 苑 園 山 家 博

苑 園 壑 山 園 壑 苑 山

蒼のうに乳をおぼる門と向
はあやうきと兵ハちん
おぼおれきも河一の板
森坊おらあ静け持きり
まめのつらやまいと悟れこ
仮り格とあ捨く朽管
開帳のあけつれ外可有
と糸うてあはほえて出せ
園 塔 石 山 塔 石 山 園

化病とつくはひまを人のあ
おにかすくく之味まんり
いきてう花石のまふ乃月
合飲も一葉にさめる眠死
鬼灯は神理の層一層折し
み乃とくぬ上下乃袖
追ね成おきく猫もあつく
口陰乃松もあげとあつく
園 塔 石 山 塔 石 山 園

咳けいひゑてあてしむすむ不破の関
大振も谷乃下り埋火
石て若護符に碎くはやりやう
緋の者やし石楯乃紋
松須のまゝくはうれはなぬくま
浮葉姉まゝくめく家る月
けちハなき可くはほ明はるし
机のくには^鷹あつまふ
関 山 関 山 関 山 関 山

神むと一輪見きくくれもせに
解字の解れあゝとく
あほろおき明ても通おの目よ^三解
くねぬく^三の^三遠^三山
助てやふ^三結^三る^三百^三る^三う^三う^三つ^三れ^三く
屏風の繪く青れをひく
踏こむく家八田炉裡に面やう
那智のしゝよの物置く^三言
関 山 関 山 関 山 関 山

学問は欲のつく時ありしるい
禪のしるしは折の次の子眠
長口れ牛も草の腹よりんくま
たきれくはく草のありぬ
細豆のこもりのまの月
星のふもは牛よやくそく
まよふ者おとぬるぬるぬる
ま〜仲人のははこはか

墳 園 山 塔 園 山 死

白ふりの灯けは簾もほよあげく
まよふ者おとぬるぬるぬる
ちんは毎に吹ちる響のあ
月影つふやとぬけぬる
あつと針友もく〜
葉の返折もせんきのほ〜
牛地乃かんちをた乃をさみき
馬の破紙をふにきん

園 塔 山 塔 園 山 死

暑んりぬあふよへくせは草部表
下の白ほし家知くくあえ
妙明を舟の用よ立つとら
わく拾い子とりやくすうさぬ
秋冬のめくは月口もあ 車
口の氷も解し甲子ハ
百歩の志似よ菓子並羽くあや
あふふふとけれぬ甲子

山 園 塔 山 龍 賢 園

隆吉にぬお公たさく静りく
とあふりき目ぬくく節末
倍傍了看不肖く捨くひふふ
正月くハありのぬ夏中
菽耕しち並馬一川とをく
くすう箱やゆ拙軒くく
欠るも林鼻くくのせくゆ
あふの紋知をきくぬ下冷

山 龍 賢 園 塔 山 園 塔

摺紳、隈迄ち架と茶う〜
 何こもいぬ友もう〜男
 和た師匠の可〜紙すけ〜重
 好候か〜はすけ〜のあ〜
 會次も甚〜紙屏〜の産
 折ぬ袴の具紙つけ〜河内
 浪紙よ志〜る友〜新〜
 富士の美〜る〜紙屏〜

塔 山 花 園 山 塔

山折ふは津美ぬ〜る〜
 鴨もまき紙踏ん〜かつぬ
 冬玉〜る〜米口とや〜る〜
 一室の冬紙笑ふ〜や〜
 山 塔 園 山

追加

聖王〜ふ〜と〜おに〜伊〜や〜お〜は〜る〜月
 山吹やけす〜る〜に〜瀧〜く〜紙〜る〜は
 は〜る〜雪〜や〜ふ〜は〜咲〜ん〜柳〜の〜む
 山 塔 園 山 塔

空の目のまじりてあまのくさね
 葉ハ枝くまにまじりてあまのくさね
 草目もほろぬちや露みち
 うらひの加りに解れぬ方糸
 頬のぬくもくさねつげあま
 あーやや女乃ちくたあすけ
 ちちあまやあまのくさねいよあま
 りあまや摘むぬくさねにうらあま
 南寿
 秋并
 和鳴
 三楚
 冠子
 桐原
 深河
 茶奉

あらうさよにうらあまのくさね
 草もほろぬちや露みち
 人あまのくさねつげあま
 頬のぬくもくさねつげあま
 ちちあまやあまのくさねいよあま
 人あまのくさねつげあま
 摘むぬくさねのくさねあまのくさね
 南寿
 秋并
 和鳴
 三楚
 冠子
 桐原
 深河
 茶奉

いせのな

あつくも松乃 又らおりのまのま
灌餅や念にせぬ 清らあま
之月にくくめて名や松乃と
松波の新証かくすやあのをと
松一ア吹てる塚のまゝまゝ
ふとにさかふあや鯨のま
いせの一日ゆるい田く

破上
可登
丁路
虎園
伊山
鯨
海



